

# 出張報告

令和6年4月2日

会派名・	民社友愛
報告者氏名	相澤 宗一、佐藤 和典
種別	<input type="checkbox"/> 調査研究（ <input type="checkbox"/> 行政視察） <input type="checkbox"/> 研修会 <input checked="" type="checkbox"/> 要請・陳情 <input type="checkbox"/> 各種会議
用務	国民民主党代表 玉木雄一郎事務所 訪問
日時	令和6年3月28日（木） 10:30～11:00
場所 （会場）	衆議院第一議員会館 （衆議院議員 玉木雄一郎事務所）
調査項目等	柏崎刈羽原子力発電所の再稼働に関する要望
概要	<p>柏崎市議会、刈羽村議会において「柏崎刈羽原子力発電所の再稼働に関する請願」を採択したことを受け、国・県に対し「新規制基準に適合する号機の早期再稼働を実現するための要望行動」を順次実施していることについて報告するとともに、国の根幹をなすエネルギー、とりわけ関東圏にとって重要な電源の確保に関する意見交換ならびに引き続きの理解協力の陳情を行った。</p> <p>【玉木雄一郎 国民民主党代表】 住民に対する説明や安全性の理解を求めることは、事業者がすることは当然だが国策であるので国がもっと積極的にいろいろな形でやるべきだ。国家のエネルギー安全保障、根幹にかかわる話である。 基準を満たさず満たさないとかを超えた、国が出すべきメッセージがあるだろうということをいろんなところで申し述べさせていただいている。 関東にとって、柏崎刈羽が動くかどうかすべてであると思っている。実際に活動、動きが出ていることに対し、我々としてもますます後押しをしたい、具体的な行動に敬意を表したい。</p>
所感等	<p>【佐藤和典】 意見交換を通じて、柏崎市議会での過去55年の原子力発電に対する議論の歴史や新潟県議会での議論の進め方について伝えることが出来た。また、地元同意・地元理解の必要性やあり方について国民民主党の玉木代表と議論できたのは貴重な機会となった。これらの考え方をベースに今後も市議会の中で議論していきたい。</p> <p>【相澤宗一】 日本の電力は改革により発送電分離が行われ、発電事業側に供給責任がなくなった。一昨年の需給ひっ迫時には、大臣からの要請という形にて発電が行われ、大停電は間逃れた。これは原子力にも当てはまり「国が前に出て」の意味でも電力システム改革の課題解決が重要であることを共に認識でき、その働きかけを期待する。</p>

